

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200652		
法人名	株式会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑師勝 1階		
所在地	愛知県北名古屋市熊之庄東出42-1		
自己評価作成日	平成27年11月8日	評価結果市町村受理日	平成28年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F
訪問調査日	平成27年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・スタッフ間のチームワークが良く、常に意見交換し工夫しながら仕事に取り組んでおり、働きやすい職場になっている。 ・利用者さん1人ひとりが安全・快適に過ごして頂けるよう支援している。 ・利用者さんに楽しんで頂けるよう、レクリエーションや外出行事を企画している。 ・消防署に依頼し地震体験車を呼び、地域の方々にも参加の声をかけた。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人本部で新人研修を受け事業所に配属されたあと、管理者やフロアリーダーの指導のもとで職員は支援について学び、就業1年研修、3年研修などのフォローアップも受け技量をあげている。そして利用者それぞれの個性や思い、好み、生活歴が違う中で共同生活がうまくいくように、個々に寄り添いながら職員一丸となってチームワークで支えている事業所である。開設以来地域との交流を徐々に広げており、近隣の人たちから認知症の相談事を受けたり、講習を開いたりできるよう取り組みつつある。災害などがあった場合の協力体制についても、検討中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・玄関と事務所の目につきやすい場所に掲示し、 毎朝唱和し意識づけしている	理念は事務所、玄関に社訓と共に掲げられており、職員は唱和し確認している。理念に従い自己決定、自立支援、個性を大切に寄り添う支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に入会し、地域の行事などがあると、 可能な限り参加し、交流を深めるよう努めている ・近所のスーパーや喫茶店に出掛けている	町内会に加入し、秋祭りには子供神輿が事業所前にやってくる。事業所の敬老会には近隣へ挨拶まわりをし、交流を深めている。地域の回想法の会に参加したり、ボランティアの訪問や高校生のインターンシップも受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症を地域の人々に理解して頂く為に、 地域の行事などに積極的に参加している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1回会議を開催し、ミーティング時に報告を受けて、話し合っている	2ヶ月ごとに、自治会長、民生委員、利用者家族、市の高齢課職員、包括支援センター職員などが参加して開催されており、地域の情報、介護情報、事業所の活動などの報告と、意見交換がなされ、運営に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域ケア会議に参加したり、研修内容にあったスタッフが研修を受け、ミーティング時に報告を受けている	利用者家族の状況事例相談で、市役所や包括支援センターと連絡を取り合っている。 市の主催する外部研修に職員は参加しており、学んだ内容を復命報告し皆で共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束委員を設置している ・玄関は、安全確保の為、自由に入出入り出来ない時もある ・人権を守りつつ拘束にならないように工夫している	身体拘束についてのマニュアルや法人での研修もあり、職員はスピーチロックも含め拘束について学んでいる。事例があればその都度注意がなされ、ミーティングで振り返り話し合っている。玄関の施錠など利用者の安全を考え、必要とされる拘束は家族に説明同意を得た上でなされている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・入浴・更衣・排泄時に身体を確認している ・外出の前・戻られてから、身体チェックを行っている ・朝礼等で話題にし、意識している			

2 / 9

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・ミーティング時に研修報告にて学んでいる ・利用者の方で権利擁護に関する権利を使用されている方はみえないが、今後学ぶ機会をもち活用できるように支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ご家族に説明し、見学を行い理解して頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議に利用者家族の代表の方に参加して頂き発言の場を作っている ・懇談会・家族会を開催し、話し合う機会を設けている	家族会、家族懇談会がそれぞれ年に1度開かれている。面会時には職員や管理者が家族と話す機会を設けており、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年1回社員旅行があり、社長と話す機会がある ・個別懇談会にて意見を聴いてもらう機会がある	利用者支援の場面で気付きがあると、ミーティングや申し送りノートで提案がなされ、まず取り入れて実行してみる姿勢ができています。また、社長とは社内旅行にて職員一人ひとりの意見を聞いてもらう機会があり、管理者がアンケートと面談にて意見、要望を聞く機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員個々の状況が把握されていて、それぞれに合ったシフトになっている ・レベルに合った研修への参加の声かけがある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内・社外の研修に参加する機会があり、ミーティング時に報告している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、意見交換している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前に面談し、会話の中から思いを聞き取りより良い関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面談にて、不安な事や求めている事があれば一緒に考えて支援していけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・会話の中から、何を必要としているか、見極め希望にあった支援ができるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・尊敬の気持ちで接している ・出来る事・出来ない事を見極め一緒に家事活動を行う ・食事・おやつと一緒に同じ場所ですべてしている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・月に1回 家族にメッセージを送り1か月の生活の様子をお知らせしている ・家族に相談しながら、一緒に介護をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今までの関係の継続は難しいが、新たに馴染みの関係を作っているように支援していきたい	今までの生活を忘れてしまった人や、入居からの日数が長い人も多く、事業所を通して喫茶店や買い物先の馴染みの関係を築く支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・共用部での活動にお誘いし利用者さん同士楽しく生活できるように支援している ・お互いに意見を言い合いながら、お互いを理解し共に楽しく生活できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・来苑された際は、快く受け入れ来苑しやすい雰囲気を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の意思を尊重し無理強いせず、見守り支援している	利用者の「嫌だ」を尊重し、今から何がしたいですかなどと声かけをし、利用者の言葉や表情からその意志を読み取れるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントシートより、今までの生活を把握し、それを踏まえてサービスが出来るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎朝・入浴前にバイタルを測定し、変化に気づくようにしている ・毎日記録を行い、送りなどにより心身の状態など、現状を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプランに沿ったケアを行いミーティング時に話し合い、より良い介護計画を作成している ・担当者会議をして見直している	より良い介護計画を作成するために利用者から聞いた意見や、担当者会議に家族も参加してもらい思いや意見を聞き、それを介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・業務日誌に記録したり、連絡帳で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・訪問マッサージや医療との連携 ・家族と懇談会を行い、その時々ニーズに対応できるよう話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・回想法センターを利用したり、地域の行事に参加している ・訪問理容を利用している ・リズム体操を定期的に行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族の希望により、かかりつけ医を決めて頂いている ・定期的に往診して頂き、相談できる関係作りに努めている	利用者や家族の希望を大切に、かかりつけ医を決めてもらっている。ほとんどの利用者が馴染みのかかりつけ医から事業所の協力医に変えている。協力医は緊急時に対応してくれるよう連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護と連絡帳にて情報を交換し指示を受けている ・急変時は、24時間体制で相談できる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・面会に行き、担当医・担当看護師と情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族や医師と話し合いの場を行い、終末期に向けた方針を統一して対応出来るように努めている	状態が悪化した時は、この事業所で出来ることを医者、家族、事業所で何度も話し合い、その都度ケアプランを見直している。見直したケアプランをミーティングで職員全員が共有し、把握に努めている。看取りについても職員で話し合ったり、研修を受けたりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年1回、消防署立ち合いの下、AED・応急手当などの初期対応の訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に時間を変えて、避難訓練を行っている ・運営推進会議などで、地域の方々へ協力を求めている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・「人生の先輩である」と言う事を頭に置いて、言葉遣い等を気に付けている ・居室など入室の際は必ず合図をして入る	人生の先輩であることを忘れず、援助が必要な時も大きな声で声かけをしないよう心掛けて いる。利用者の部屋に入るときも必ず「～さん、入りますよ」と声かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の意思を確認し、自己主張できる方には意見を尊重し自分で納得して、暮らせるよう心掛けて支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日のスケジュールは決まっているが、その日の体調をみながら、無理強いしないよう個々の希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・2ヵ月に1回、訪問美容は利用しカットやカラーを入れている ・イベントの時は、ご自分で浴衣を選びマニキュアをしている ・毎朝、洗面所にて髪の毛を整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食器拭き等、出来る事を一緒に行う ・会話の中から、好きな食べ物を聞く ・味見して頂く	畑で芋を掘ったり野菜を摘んだりして食に興味を持ってもらい、手作りの行事食や季節の食材を使った料理を楽しんでいる。また、レクリエーションの一つとして喫茶店に出かけたり、外食に出かけたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日の食事量・水分量を記録し、その人に合った食事を提供している ・食欲が落ちた場合、形状を変えたり、栄養剤を補給している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時・毎食後にケアを行なっている ・出来ない方は、介助にてケアを実施している ・ブラッシングができない方は液体歯磨きにてうがいされている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを記録にて把握し、トイレ誘導する事で、失禁を減らせるように支援している	個々の排泄のリズムを大切にして、チェック表をもとに声かけによって排泄を促している。嫌がるときは無理強いせず「嫌だ」を尊重し時間をとおいてもう一度別の人が声かけをするよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・乳和食を取り入れた料理を作っている ・起床時には、毎朝牛乳・ポカリを飲んで頂いている ・温タオルや腹部マッサージにて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、気持ちよく入って頂き清潔を保っている ・スタッフの都合で時間帯を調節しまう事もある	職員は、利用者の不安や恐怖心への抵抗感を無くすよう努めている。例えば美しいものが好きな利用者のためにお風呂に花を飾ったりしている。また、夜に入浴したいという希望にも極力応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分居室で休まれる方と声掛けにて休まれる方がみえる ・いつでも休んで頂けるよう環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに薬情報があり、すぐに確認できる ・薬の目的や用法について理解し、情報交換に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・出来る事、楽しめる事を把握している ・苑内行事を計画し気分転換を図っている ・散歩・買い物に出かける		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・希望通りにはいかないが、苑の周りを散歩したりしている ・年に何回か外出行事などの企画をたて外出支援している ・家族との外出・外泊も無理なくして頂けるよう支援している	利用者は外に出ることが困難なことも多く、その場合にはベランダに出て歩いたり、日光浴を楽しんだりしている。出かけられる利用者は、喫茶店や散歩を楽しんでいる。年2回の行事で花見に出掛けたり紅葉を楽しんだりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ほとんどの利用者さんが、事務所での管理となっている ・ご本人の希望によりご自分でお小遣い程度持つて見える方もいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族と相談しその方に合った支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・活動時に作った作品を飾ったり、玄関に季節の花・作品を展示し明るい空間作りに努めている ・共用部には、南側に大きな窓があり、外の景色を見ることで、季節感が感じられる	リビングにはソファが置いてあり、利用者はそれぞれお気に入りのソファでくつろいでいる。畳スペースに、こたつを置きみんなで温まってもらう計画がある。壁には利用者と職員が協力して作った季節感のある貼り絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・独りになりたい時は、居室で過ごされて頂いたり、気の合った者同士過ごせるよう声かけ支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者さんや家族と相談しながら、使い慣れた家具・棚を持って来て頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本的には何を持ち込んでも良いので、机や仏壇などを持って来てもらい、居心地の良い時間を過ごせるよう家族と一緒に考えている。事故を防ぐためベッドの横に椅子も置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・所々に手すりがあり、個室にて個人のプライバシーが確保され、トイレなどは分かりやすく表示し、出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している		